

予 算 要 求 資 料

令和3年度当初予算 支出科目 款：総務費 項：企画開発費 目：企画調査費

事業名 現代陶芸美術館展示費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

現代陶芸美術館 総務部 管理調整係 電話番号：0572-28-3100 (内 103)

E-mail：c21802@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 31,172 千円 (前年度予算額：41,575 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	41,575	15,271	0	7,492	0	0	2,117	0	16,695
要求額	31,172	10,153	0	4,439	0	0	0	0	16,580
決定額	29,564	9,510	0	4,439	0	0	0	0	15,615

2 要求内容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

- ・岐阜県現代陶芸美術館の収蔵品等を多角的視点から展示
- ・国内からの借用作品による多彩なテーマの企画展示

(2) 事業内容

○企画展開催事業費

①「Human and Animal 土に吹き込まれた命」 [企画展]

令和3年4月24日(土)～6月20日(日)：50日間

②「町田市立博物館所蔵 岩田色ガラスの世界展—藤七・久利・糸子」 [企画展]

令和2年7月10日(土)～8月29日(日)：44日間

○コレクション展 [常設展] 開催事業費

①「コレクション展1」 [常設展]

- ・コレクション・ハイライト、令和元年度新収蔵品展、セラミックス・ジャパン関連作品展

令和3年3月23日(火)～7月25日(日)

②「コレクション展2」 [常設展]

- ・コレクション・ハイライト、令和2年度新収蔵品展、日本の茶器

令和3年8月7日(土)～令和3年10月31日(日)

○ M o M C A サテライトミュージアム

- ・ 館外施設を活用して、当館収蔵作品を展示する移動美術展「M o M C A サテライトミュージアム」を開催する。
- ・ 令和3年度 東濃・飛騨・岐阜地区で開催予定
令和4年度 東濃・西濃・中濃地区で開催予定

○ 準備費

① デジタル・アーカイブ事業

- ・ 約20年間で収集してきた美術作品と資料をデジタル化する。

② 令和4年度以降の企画展等の準備、調査

(3) 県負担・補助率の考え方

県 10/10

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
報償費	300	謝金
旅費	1,345	職員旅費、講師等費用弁償
消耗品費	2,116	展示用消耗品費、配布用図録費
会議費	5	講師会議
役務費	876	通信運搬費
委託料	15,130	展示等業務委託料
使用料	250	会場借上料
備品購入費	150	スキャナ A3 対応
負担金	11,000	巡回展負担金
合計	31,172	

決定額の考え方

事業内容を精査し、所要額を計上します

事業評価調書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

【企画展】

当館の基本方針に沿った分野の展覧会ほか、陶芸の隣接分野のガラス作品を紹介する。これらにより新たな来館者を獲得するとともに、県民の陶芸等芸術文化に関する知識・教養の向上及び県陶磁器産業の発展に寄与する。

（1）Human and Animal 土に吹き込まれた命 展

人間や動物をモチーフとした作品を一堂に展示し、土素材がもつ力や、土のアート最先端を紹介する。多くのファンを持つ現代美術作家の作品やフィギュア系の造形を取り上げることから、従来の陶芸愛好家に加え、新たな来館者層の集客が見込める。

（2）町田市立博物館所蔵 岩田色ガラスの世界展—藤七・久利・糸子 展

国内外で高く評価された日本のガラス工芸家の作品を、東京オリンピック・パラリンピックの開催時期に合わせて紹介することで、多くの集客が見込める。また陶磁器と同じ窯業であるガラスのデザインに触れることで、地域の文化振興に資する。

【コレクション展[常設展]】

当館のコレクションに基づいて、幾つかの観点から展覧会を計画している。

第1期は、コレクション・ハイライトとして当館コレクションの逸品や、実用陶磁器、令和元年度に収蔵した作品を展示する。第2期は、コレクション・ハイライトとして当館コレクションの逸品や、企画展に関連して当館所蔵の茶器、令和2年度に収蔵した作品を展示する。

中でも、コレクション・ハイライトには一室を配し、当館の魅力的な収蔵作品のうちでも珠玉のものを紹介するもので、これによりぶらりと立ち寄った方が、いつでも当館所蔵の名品を鑑賞できることになる。

以上のように、企画展とコレクション展[常設展]の双方で、多角的で魅力的な展示事業を展開する。

【MoMCAサテライトミュージアム】

施設改修に伴う休館中に、館外施設を活用して、当館収蔵作品を展示する「MoMCAサテライトミュージアム」を開催し、広く県民に岐阜県が誇るやきもの文化の魅力を伝える展覧会を行う。

- ・ R3年度 東濃・岐阜・飛騨で計3回実施予定
- ・ R4年度 東濃・西濃・中濃で計3回実施予定

「MoMCAサテライトミュージアム」開催中、会場施設またはその周辺施設を活用して関連企画を催す。

- ・ 収蔵作家トーク・対談会・講演会
- ・ 当館学芸員による展示解説（ギャラリートーク）
- ・ 展覧会に関わる文化講座・来館者参加型の鑑賞会
- ・ 造形ワークショップ 等

当館になじみのない東濃以外の県民への認知度向上が期待できる。また、東濃地域でも開催することとし、地域の住民にもリニューアル後の来館意欲を高めることができる。

【準備費】

デジタル・アーカイブ事業

開館以来収集してきた美術作品や関連資料をデジタル化し、20周年記念図録の製作準備、資料をデータベース化することにより、展覧会企画、教育普及活動等に活用する。それにより、当館の展覧会、教育普及活動が充実し、来館者の増加につなげることができる。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前	指標の推移		現在値 (前々年度末時点)	目標	達成率
入場者数	(H)	33,645 (H29)	69,852 (H30)	24,976 (R1)	12,700 (R3)	131%

※R3年度に開催する企画展は2本である。R1年度には企画展が3本あったため、以下の計算で達成率を算出した。

$$(24,976 \times 2/3) \div 12,700$$

○指標を設定することができない場合の理由

--

(前年度の取組)

・ 事業の活動内容（会議の開催、研修の参加人数等）

【企画展】

- ①「記憶と空間の造形 イタリア現代陶芸の巨匠 ニーノ・カルーソ展」
令和2年2月27日～4月3日（令和元年度から引き続き開催。当初は4月12日まで開催する予定であったが、新型コロナウイルス感染症対策のため、4月3日で終了した。）
- ②「ルート・ブリュック 蝶の軌跡展」
令和2年6月6日～8月16日（会期を変更）
- ③「神業ニッポン明治のやきもの 幻の横浜焼・東京焼展」
令和2年9月5日～令和2年11月3日（会期を変更）
- ④「アンドリュー・ワイエスと丸沼芸術の森コレクション展」
令和3年1月5日～3月14日（会期を変更）

【コレクション展[常設展]】

- ①「コレクション展1」
 - ・ 改元記念事業 題名のない展覧会
 - ・ コレクション・ハイライト
 - ・ 新収蔵作品展令和元年12月21日～令和2年4月3日（令和元年度から引き続き開催。当初は5月10日まで開催する予定であったが、新型コロナウイルス感染症対策のため、4月3日で終了した。）
- ②「コレクション展2」
 - ・ 北欧の陶芸
 - ・ コレクション・ハイライト
 - ・ 「国際陶磁器フェスティバル美濃」 グランプリ作品展
令和2年5月19日～9月6日
- ③「コレクション展2」
 - ・ 令和3年度企画展関連企画
 - ・ コレクション・ハイライト
 - ・ 令和元年度新収蔵作品展
令和3年3月23日～7月25日

(前年度の成果)

・前年度の取組により得られた事業の成果、今後見込まれる成果

【企画展】

- ①イタリアから借用した大型作品を中心に、初期の作品からデザイン画等の資料も豊富に紹介し、作品の構想過程についての理解も深める内容となった。国際陶磁器フェスティバル美濃展のプレイベント的な位置づけともなった。さらに土岐市がファエンツァと姉妹都市提携を結んでいることから、地元の関心を高めることができた。
- ②フィンランドを代表する作家ルート・ブリュックの1950年代から1960年代にかけて、世界を席卷した北欧ブームの一翼を担った作家の創造の変遷をたどった。陶磁器のみでなく、テキスタイル、版画なども紹介することで、創作の全貌に迫った。新たな来場者層におおいにアピールし、コロナ禍にもかかわらず、たいへん多くの来館者があった。
- ③明治時代、華やかな装飾や複雑な彫刻で精緻を極めた横浜焼・東京焼は、優美かつ類稀なるデザインで外国人に人気を博し、世界を魅了した。これらの作品は近年注目を浴びており、多くの集客が見込める。
- ④「丸沼芸術の森」が所蔵する幅広いコレクションを紹介する。設立者の芸術志向のきっかけとなった地元陶芸作家をはじめとする陶芸コレクション、気鋭の作家たちによる現代美術のほか、アンドリュウ・ワイエスを中心とする絵画コレクションを一堂に展示することで、多く美術ファン層を開拓できる。

【コレクション展[常設展]】

- ①「改元記念事業 題名のない展覧会」では、展示作品から作品名や解説を付したキャプションを離して展示することで、作品の題名を想像しながら、それぞれの感じ方で、様々に思いを巡らし、作品そして作家との対話を楽しんでいただいた。

「コレクション・ハイライト」では、収蔵作品のうちでも珠玉のものを紹介することで、ぶらりと立ち寄った方でも、いつでも当館の逸品を鑑賞していただくことができた。

「新収蔵作品展」では、新たに収蔵することになった作品を展示することで、当館の新しい魅力を発信することができた。

- ②「北欧の陶芸」は、「ルート・ブリュック 蝶の軌跡」展と関連して開催した。デンマーク、スウェーデン、ノルウェー、フィンランドにおける陶芸および陶磁器デザインの歩みを概観し、北欧デザインの魅力を伝えた。

「コレクション・ハイライト」では、収蔵作品のうちでも珠玉のものを紹介することで、ぶらりと立ち寄った方でも、いつでも当館の逸品

を鑑賞していただくことができた。

「国際陶磁器フェスティバル美濃」グランプリ作品展」では、第 12 回国際陶磁器フェスティバル美濃を前にして、これまでのグランプリ作品を一堂に展示することによって、陶磁器の未来を提案してきた International Ceramics Festival Mino の成果を紹介することができた。

- ③「令和 3 年度企画展関連企画」では、当館所蔵の柱のひとつ、実用陶器コレクションから優品を展示し、当館の幅広い収集活動の一端を紹介する。

「コレクション・ハイライト」では、収蔵作品のうちでも珠玉のものを紹介することで、ぶらりと立ち寄った方でも、いつでも当館の逸品を鑑賞していただくことができる。

「令和元年度新収蔵作品展」では、新たに収蔵することになった作品を展示することで、当館の新しい魅力を発信することができる。

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・ 事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い △：必要性が低い	
(評価) ○	近現代の国内外の優れた陶芸文化を紹介する展示事業は、子どもや若い世代の感性を育てる教育的事業であるとともに、美術ファンを含む県民のニーズに対応する文化事業として重要である。また、地元陶磁器産業や作家等と連動し、その活性化に資する点で必要性が高い。
・ 事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおりまたはそれ以上の成果が得られている △：まだ期待どおりの成果が得られていない	
(評価) ○	平成 14 年の開館以来、多様な展示活動によって、世界の優れた陶芸を身近に鑑賞できる施設として認知されてきた。また、地域に根差した展示活動についても評価されている。令和 2 年度は、陶芸専門館として海外作家の現代陶芸や明治期の産業陶磁器、陶芸の枠を越えた展示などから、県民の多様なニーズに対応することができた。
・ 事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている △：向上の余地がある	

(評価) ○	所蔵品を生かすと同時に、魅力発信事業を企画展と連動させるなどして、展覧会の多角的な展開を図った。ただし新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、一部の催事等の事業が実施できなかった。
-----------	---

(今後の課題)

<p>・事業が直面する課題や改善が必要な事項</p>	<p>令和2年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため、当初予定していた展覧会の会期を大きく変更したり、イベントを中止したりして開催したが、令和3年度も感染状況を把握しながら、来館者にとって安心安全な環境をつくり、魅力的な展覧会を開催できるよう臨機応変に対応する必要がある。</p>
----------------------------	---

(次年度の方向性)

<p>・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか</p>	<p>当館は、国内外の様々な優れた陶芸作品が見られると同時に、様々な県民や美術ファンのニーズに答えるべく、美術館活動を実践してきた。その上で、近年は陶芸を隣接ジャンルや他ジャンルと関連付け、陶芸の領域を越える広い視野から展示活動を行ってほしい、といった声にも応えている。</p> <p>今後も当館の展示活動の基本方針に基づきつつも、より斬新な視点で県民の要望に応えるため、創意工夫を行っていく。</p> <p>作家や作品、所蔵家に対する情報を常に集める努力をしながら、展示と収集に向けて積極的に取り組む。</p> <p>また新型コロナウイルス感染症対策に努め、来館者にとって安全に鑑賞できる環境を提供するとともに、令和4年度の開館20周年に向けて、施設・設備の更新に怠りなく努め、展示・保存環境の向上を目指していく。</p> <p>さらに地域や国内、海外の陶芸館との連携強化を進めていくことも重要である。</p>
---	--

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

<p>組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課</p>	
<p>組み合わせる理由や期待する効果 など</p>	